

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人 小羊学園

〒431-1304
静岡県浜松市北区細江町中川7440-1
電話：053-437-0826 FAX：053-437-0849
E-mail kohitsuji@imix.or.jp
H.P http://www.kohitsuji.or.jp/
発行人：稲松 義人
印刷所：聖隷サービス(有)
定 価：一部 30円

2009年3月20日
第 311 号

みんなで地域まちをつくる

理事長 稲松義人

新年度、三方原スクエアの施設長を辞して、南区にあるアンサンブル江之島内にあるマルカートとドルチェの施設長に就くことになりました。マルカートは、以前に浜松市の南地区から長時間かけて小羊デイケアホームに通っていた人たちを中心にして、デイケアホームから分けて開設した事業です。また、ドルチェは、小羊学園児童寮で取り組んできた放課後支援(学童保育)のニードを考えて、より学校に近いところで展開するためにはじめた事業です。三方原スクエア児童部の学齢児たちが一時間近くかけて通っている浜松特別支援学校から三分のところにあります。どちらも北区の三方原地区での実践を、地域性に考慮して分けた仕事ということになります。

アンサンブル江之島は、もともとは利用率の低かった勤労者の厚生施設の建物を利用して、新しい福祉活動の拠点づくりのために、浜松市が浜松福祉協働センターとしてリニューアルした施設(建物)です。センター内には公募された複数の事業者が入り、協働で地域のニードに添えていこうという新しい試みで、すでに開設されて四年が

過ぎました。浜松市は建物を管理する大家さんということになりますが、センターの運営は参加する各事業者からの代表者と行政の担当者、地域からのメンバーを加えた運営委員会に委ねられており、毎日の利用者支援を担当する職員の代表者が実務委員会を組織し、センターとして連携した実践のあり方を模索しています。

その後、浜松市は政令指定都市となり七つの区が設置されましたが、南区では新しい区役所がアンサンブル江之島の隣地に設置されました。南区の約一〇万人という人口単位は、地域福祉を展開するには取り組みやすい規模だと思えますし、従来の入所施設を中心にした大きな社会福祉法人がないことは、かえってみんなで連携して地域(まち)づくりをしていくにはよいのではないかと思っています。

これまで社会福祉法人小羊学園が、三方原スクエア(小羊学園)や支援センターわかぎ、静岡市に開設したつばさ静岡のような入所型の施設を核にした事業展開とは違った手法で、新しい福祉活動実践を、アンサンブル江之島での協働をおして模索してみたいと思っています。それは、すでにある潜在的な地域の力を引き出すことにより、福祉のコミュニティを再生していく取り組みだと思っています。もちろん社会福祉法人小羊学園として、三方原スクエアや支援センターわかぎとも

連携していきませんが、本来は、施設をつくるのが目標ではなく、みんなが安心して暮らしていける地域をつくるために、必要とされる施設を運営するということではないかと思っています。

子育てを肩代わりする施設をつくること、介護を肩代わりする施設をつくること、特別な支援が必要な子どもたちのための学校をつくることなど、家庭と地域の互助機能が落ちていくところをすべてフォロー(制度的な)福祉で補うことには、おのずと限界があります。国の財政力があつた時代には次々に施設を作ってきましたが、経済的に支えられなくなると、施設は作らない。地域で自立して生活をしましょうという方向転換がなされつつあります。これまで、経済優先の国づくりの中で、家庭と地域社会にあった助け合いの機能が解体してしまつたとすれば、それなりの年月を要するとしても、それを再生していくことをはじめなければなりません。

事業者も、事業量を拡大し所有を拡大することを福祉の進展と思ひ込んできてしまったことの反省が求められます。既存の発想から抜け出せず、自分の責任の範囲でしか機能しない縦割り行政も反省すべきです。そして、自分が幸せになることを目標に、何が得か、どうしたら損をしないかを考える生き方から、他者と分かち合う生き方への転換が求められていると思います。

二〇〇八年度職員研究発表会より一題
(二月二十八日開催)

三方原スクエアの 現状と課題

三方原スクエア成人部
主任 寺井勝己

はじめに

小羊学園児童寮・青年寮が三方原スクエアに移転をして約三ヶ月が経過しました。移転改革にあたり利用者の生活の向上に向けて、限られた時間の中で何度も話し合いの場を持ち、準備を進めてきました。しかし、十分な準備期間がない中、全て満足できる体制を準備することは出来ず、移転に伴い新しい体制で支援を行うにあたっては、幾つもの問題や課題が生じるだろうと予測をしていました。そしてこれらの課題については、実際に支援を行いなから評価し、少しずつでも改善を図ればという思いのもと、新体制での支援を開始しました。開始し約三ヶ月が経過しましたが、現在でも試行錯誤を繰り返す毎日です。今回は約三ヶ月という短い期間ではありますが、成人部を主としたこれまでの経過を振り返り、現状を整理し、今後の課題を考察したいと思えます。

支援の概要

私たちが三方原スクエアをつくることに考えたのは次の三点です。

一つ目は、「落着いて生活ができる少人数での生活空間」です。子どもたちが生まれ育つ家庭や、目標とする地域での暮らしに近い環境で生活できるように、五〜六人単位で生活できるように居住環境を整えました。児童期には、本来は家庭で生活すべきだが、家庭での養育が困難な児童に入所を受け入れ、家庭復帰と自立支援を目指しますが、成人入所支援では、家族と離れて地域で自立して生活することをめざして、小集団での生活で社会性を養い、地域での生活に向けて準備することを目指したいと考えました。

二つ目は、「活動のために通っていきける場所」をもつことです。居住の場とは空間を分けて、学校や職場と同じように日中活動のために通う場所をもちたい。日中活動の場に通うことをとおして生活のリズムを整え、意欲を持って参加し、活動を通して社会とのつながりを持つことにつなげたいと考えました。

三番目は、地域の人たちと交流ができる機会をもつことです。これまでどうよう様々な人たちがボランティアや交流に出入りをして下さることによって、地域社会との接点になる施設づくりを目指したいと考えています。

次に支援体制です。

居住棟は五棟あり、成人部三〇名、児童部二〇名、短期入所一〇名の六〇名定員です。成人の入所者の生活については、のぞみの家、むつみの家、みぞの家の家一棟となっています。それぞれの棟には二ユニット体制になっており、利用者の定員は短期入所を含め一ユニット六人となっています。現状はほとんどのユニットに短期入所の一名枠を確保し、入所利用者は五名で生活しています。職員配置は棟ごとに担当職員として六名のチームをつくり、朝夕は一ユニットに原則として一名の職員配置で支援を行う体制を取っています。



成人利用者の日中活動については、

ケアホームや自宅から通所する利用者、児童部在籍の年長者を含め、現在は五三名に支援をしています。そのうち一三名は旧小羊学園青年寮の建物やワークショップみらいに通って活動をしており、残りの四〇名が三方原スクエアのコミュニティホールで日中活動をしています。職員配置はパートを含めた日中専属の担当職員が六名、成人部の生活支援の職員を日替わりで六名配置し一二名で開始しました。現在はパート職員を二名増やし一四名体制で支援を行っています。

児童部の学齢の入所児童もついでにはスクエアから特別支援学校や児童通園施設に通っています。

経過・取組み

次に、移転をして良かった点と大きな問題として取り上げられ、改善を図ってきたことを報告します。

移転して良かった点について、各棟のリーダーに確認したところ、次の三点が挙げられました。

一、利用者理解が深まってきた。利用者が少人数になったこと、環境的にも把握しやすくなったことで利用者の細かな行動にまで目が届きやすくなりました。

二、利用者が落着いて生活できるようになってきた。職員の目が届きやす

なったことで利用者が安心感を得られるようになった。小さな集団になったことで余分な刺激が少なくなった。個室という環境ができたことで自分の居場所を確保しやすくなった。一人ひとりに見合った楽しみを提供しやすくなったと感じています。

三、生活と通う場所が分かれたことで利用者の気持ち安定してきた。通う場所ができたことで気持ちの張りが出てきたと思われます。

次に課題と取組みです。

一、支援状況の格差

棟ごとの利用者編成については、職員側の介助度のバランスではなく、利用者の障害特性に合わせて調整をしました。格差については少なからず出でくるだろうということは予測をしていましたが予想以上に大きなものとなりました。特になごみの家の利用者は身体機能等の低下に伴い生活の多くの部分に介助が必要です。その上、気管切開を行い吸引や吸入等の医療的介護が必要な利用者、誤嚥性肺炎を起こすリスクの高い利用者等があり、支援を行う職員にとってはかなり負荷が大きくなってしまいました。利用者の安全面・健康面に配慮することを最優先とし支援を行えるようにと考えましたが、それが確実に保障できるという状況ではありませんでした。このような状況下で勤務時間内に雑務を含めた業務を完

結することができず、かなりの部分で勤務外で職員の気持ちで対応せざる負えない状況でした。このような棟（ユニット）がある一方、勤務時間の中で雑務までもある程度行えるユニットもありました。

この問題に対しては、今まであれば大きな集団に対し複数の職員がいて必要な時間・部分に協力体制を取ることができましたがユニット体制となり職員が一人配置で日課がほとんど同じに必要な時間帯も同じであること、ユニット内を一定時間職員がいない状況にすることも安全面から危険すぎるというところができず、生活勤務者間での協力、連携が難しい状況になりました。しかし、このままでは職員にかかる負荷があまりにも大きく早急な改善策が求められました。雑務等については夜勤補助として勤務するパート職員をお願いをし、食事、入浴、排泄と直接援助部分については日替わりで六名配置する日中担当職員から一人削る形で支援に入ってもらうことで調整をしてきました。しかし、これは生活の面では多少は改善できたとしても、日中活動の充実を考えると職員が一人減るといことと問題となり、決して良い方法だとは言えません。今後、更なる改善策の検討・調整が必要な状況あると言えます。

二、利用者の生活リズムに合わせた日

課の検討・調整

日中活動の時間は基本9:00～16:30。平日の生活担当者の勤務時間は6:00、6:30～9:30。6:30～起床し朝食、歯磨き、排泄を済ませ活動に出發するのが9:00。夕方は16:30～17:00頃に戻り夕食、入浴、就寝となっています。

この生活日課に合わない利用者が何人か出てきました。例えば朝の場合、朝食に一時間前後かかるとする。その後歯磨き、排泄支援となるが環境面、職員配置の中で支援が難しい状況が発生している（具体的に説明↓ゆとり等全く持てない、和式トイレが一つしかない、職員が傍につかないと座ってられない、排泄しないまま活動へ送る、リズムが狂い情緒面・健康面に影響が出てしまう…）。

夕方は、戻って休む暇なく夕食、歯磨き、排泄、入浴、就寝となり利用者はくつろぐ時間さえない。

この問題について、支援者である私たちはやはり利用者を主体とした支援体制を調整しなければいけないと考えました。排泄面の支援が重要な利用者については遅れて日中活動へ参加するように配慮をしようと対応しています。が、勤務内で当然対応できず問題となってしまう。現在は一時的な対応として日中担当職員を一人生活支援へ送ることとし、健康面の配慮が特に必要な数名の利用者だけであるが別日課を取れるように調整をしました。しかし、そ

れはあくまでも数名の利用者だけで必要な利用者全員への対応はできてないのが現状です。

一人の職員は生活、日中活動、ケアホーム支援、夜勤を含めた他棟への支援と複雑な勤務体制を担っています。そのような状況下の中で職員の勤務体制を調整することは非常に困難である。また日中活動から職員を数名削ることは活動の充実を図りづらくさせてしまふ。利用者個々の状況に合わせた柔軟的な対応が非常に難しいのが現状であります。この問題は今後の大きな課題となると考えています。

一方でこの課題を考える上で生活も活動も全てを充実させるということは難しいと考え利用者の何を優先とするべきかの選択を私達は迫られているのかもしれないと感じています。

三、情報伝達、共有の難しさ

支援体制が複雑化されたことにより職員間の情報交換、共有の難しさという問題が出てきました。利用者の支援上の変更や調整といった細かい部分での伝達がうまくいかず、知らないまま支援にあたっていたり、ときに事故につながることも発生しました。棟ごとでは情報共有のための連絡ノート、生活と日中活動でも連絡ノート（日誌）を作成しましたが、記録類が膨大となりうまく活用しきれずいました。ノートについてはなるべく簡素化し効率よ

く伝達できるように、その都度意見を
出し合い変更はしてきていますが、ま
だ完全とは言えません。また施設全体
の情報の伝達については原則として事
務所が様々な事柄、内容を集約してパ
ソコンで伝達する仕組みとなっていま
すが、状況に応じての変更点が多くま
た調理、事務所、医務までとなると範
囲も広がり誰がどのように責任を取っ
て伝えるのが曖昧となってしまう、
事故が発生しやすい状況にあるのでは
と思いません。

簡素で効率よく情報伝達、共有でき
る仕組みを見直す必要が高いと感じて
います。

今後の課題

- 経過と取組みを踏まえ、今後の課題
として大きく六点あると感じています。
- 一、利用者の特性に合わせた生活（日
課）の見直し。
 - 二、支援体制の見直し。日課に合わせ
た支援体制の変更、連携の方法、欠勤
者がいた場合の支援体制など。
 - 三、情報伝達・共有の方法の見直し。
 - 四、職員の資質の向上。一人勤務体制
での判断力、新職員への支援スキルの
伝達力、どこの部署へ入っても対応で
きる応用力などを養成する。
 - 五、在宅支援への取組み。
 - 六、業務内容の複雑化への対応。スタ
ンダードの確立。

おわりに

三方原スクエアでの新しい支援はま
だ始まったばかりである。報告させて
いただいたように課題は山積みではあ
るが三方原スクエアから障害児者支援
において新しい風を吹かせることがで
きるとすれば、それはとてもやりがい
のあるものではないかと感じています。

三方原スクエアの目指すものを職員一
人ひとりが意識し、利用者の生活の向
上と地域から期待されるサービスの提
供と向上に今後も努めていきたいと考
えています。

つばさ静岡・看護師募集

静岡市にある重症心身障害児施
設つばさ静岡では、引き続き看護
師を募集しています。心身に重い
障害があり医療的なケアが必要な
人たちのための施設で、看護師の
配置はより良い支援のために欠か
すことができません。

連絡先 つばさ静岡
☎(〇五四)二四九一―二八三〇

新年度の幹部職員異動のお知らせ

- 稲松義人…マルカート施設長
山崎陽司…三方原スクエア児童部成人部施設長兼温心寮管理者
古橋 誠…支援センターわかき副施設長（マルカート施設長）
- （三方原スクエア児童部成人部施設長兼温心寮管理者）
（三方原スクエア事務局長兼施設整備担当）

宜しくお願ひします。

旧小羊学園（児童寮・青年寮） 解体と敷地売却の お知らせ

三方原スクエアへの移転によ
り、旧小羊学園は解体し、敷地
を聖隷おおぞら療育センターの
増築のために聖隷福祉事業団に
売却することになりました。

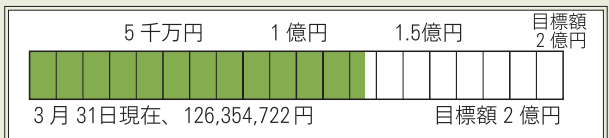
これにより一九六六年（昭和
四一年）の開園からたくさんの
思い出がある小羊学園発祥の地
を離れることとなりますが、新
しい実践が求められる時代に小
羊学園の創立の精神を心に刻ん
で、チャレンジしていきたいと
思います。

小羊学園創立感謝祭 （四三周年）

日時…五月二日（土）
記念礼拝…午前十時四五分
模擬店、喫茶、アトラクショ
ンなど…午後一時半より
場所…三方原スクエア
（浜松市北区三方原町二七〇九―二）
お問合わせ…☎〇五三四―四一八三三

小羊学園を支える会

三方原スクエアの建設には多くの方がご協力くださ
いました。心から感謝いたします。



小羊学園への寄付金の振込先

（口座名義）「小羊学園を支える会」
郵便振替口座 〇〇890-4-45415
りそな銀行浜松支店（普通）040005
静岡銀行細江支店（普通）043483
ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたしま
す。下記へご連絡ください。
三方原スクエア ☎053-414-1833

編集後記

この春は、私自身も職場を移すことにし
たため、年度末から新年度にかけてそのた
めに労力を使いました。地域に住み、日中
だけ施設に通ってくる人たちも、様々な課
題をもって生活しています。支援を受ける
ために施設に入所することで地域を離れる
のではなく、地域社会の一人として生活で
きるように、まちの中でどのような支援を
届けることができるでしょうか。福祉の仕
事は支援を必要とする人たちと向き合うと
ころが原点です。初心に返って初めての体
験にチャレンジしたいと思っています。新
年度、皆様のご健康と日々の平安をお祈り
いたします。